

馬城会報 (第 49 号) より抜粋

入会式のときに卒業生に配られた、馬城会報から抜粋しました。各支部の動きや馬城会総会、相馬支部総会等が掲載されています。

(1) 令和 2 年 2 月 28 日

馬 城 会 報

第 49 号



発行所 福島県立相馬高等学校 馬城会 相馬市中村字大手先57-1 TEL. 0244-36-1331 FAX 0244-36-6149 発行人 馬城会長 山 正 之 印刷人 中村印刷機



21世紀に生きる君たちへ 会長 村山正之

馬城会員となられた卒業生の皆様。ご卒業、誠にありがとうございます。馬城会が結成された明治36年以來、2万名を超える同窓生がこの学び舎から巣立ちました。人生で最も多感な青春の3年間、仲間と語り合い過ぎた時間は、貴重なものです。掛け替えない友人など、これからの生き方の根幹になる何がころの奥深くにきつと築かれています。

化でしょう。雪がで、雨や雪が降るなどの現象は、対流圏という地上約10kmの中で起こっています。10kmの距離は、常磐線相馬駅と鹿島駅間です。地球の半径は6千4百もあるの、対流圏の幅は地球半径の約10分の1です。半径6cmのりんごの皮に例えると、その厚さは実に0.1mmなのです。毎日の天気や人の日常は、地球を覆うこの薄い空気の中で起こる出来事です。無限の代名詞大航海も、平均海深は、相馬駅と駒ヶ嶺駅間と同じ値が4.5mです。人類が大量にエネルギーを消費し始めて、まだ100年余りですが、高さ10m程の



会長退任挨拶 前会長 奥村 晃三

馬城会長に就任してから6年が経過し、このたび村山新会長にバトンタッチさせて頂きます。振り返りますと平成23年3月の大地震と津波、更には原発事故と風評被害が続く中で、同窓会のあり方を模索しながらの毎日でした。特に、この様な大災害時同窓会として何が出来るのか? また、差し迫った相馬高校創立100周年の記念式典をどの様に祝うべきか?

応援する人たちの前で、人生という打席に立つのはいつもあなた一人です。変化球を打つか見送るかを判断するのも君自身です。凡打や空振りが多く、ヒットは少ないのが世の常です。三振しても、気を取り直して挑戦し続ければ、ホームベースを踏めることを多くの先人、先輩が証明しています。前進あるのみ、君のチャレンジ精神がきっと道を拓きます。さて、今世紀のグローバルな課題の一つは地球温暖

かない対流圏がその影響を受けていると考えるのは自然なことだと思います。ところで、人生には何度か考えてもいなかった方向が事象が動いてしまったことがあるものです。昨年度、図らずも、奥村会長さんからバトンを引き継ぐことになりました。同窓の皆様力を頂きながら、微力ではありますが、感謝の念をもって、相馬高校と同窓会のために力を尽くしたいと思っております。

結びに、会員各位のご多幸、ご健勝と母校の発展をお祈りいたしますと共に、若き新馬城会員それぞれが、住き人生を拓かれますことを、切に、ご期待申し上げます。

も変わりつつあります。国際化への対応や、在校生との連携強化はこれからの課題です。

そんな中、相馬高校という共通の基盤で学んだ私達には、同じ道伝子が残されているのかも知れません。現在、日本は東京オリンピックとパラリンピックを間近にひかえています。この盛典は、国際化とAI化を進める契機になり、日本も大きく変化すると思われる。同窓会活動も変化を余儀なくされることでしょう。

馬城会も時代に則した同窓会に進化することを期待して、挨拶とさせて頂きま

「文武両道」へのチャレンジを継続してほしいと思います。馬城会の会員構成にも男女比に変化が起きつつあり、求められる活動内容

春高応援で叶った再会

私たち昭和38年卒業の同級生8名は、新春1月6日、相馬からの大応援団とともに春高バレーの応援に参加して参りました。母校相馬高校は2年ぶり21回目の出場であり、福島県の『常連校』として称賛に値するものと思っております。

試合結果は選手諸君の熱気あふれるプレー、大応援団の熱烈声援も空しく、残念ながら敗退いたしました。選手諸君と『地元』から応援に来てくれた応援団に「あっぱれ」の賛辞を贈りたいです。また、後輩の大会出場のおかげで後期高齢者に達した私たちに「再会の機会」を与えてくれたことにも感謝いたします。

私たちは調布市の居酒屋にチェンジコートし、盃を交わしました。時が経つごとに「標準的な相馬弁」に復帰し、当時の相高の思い出、近況報告、健康管理の話など、楽しい時間を過ごすことができました。

次回は、「同級生で喜寿を祝う会」での再会を誓い、別れを告げました。



長堀 守弘氏 フランス芸術文化勲章叙勲

株ナガホリのフアウンダー1会長や明治大学顧問を務めている長堀守弘氏(昭27普卒)が、去る平成31年1月18日、フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエを叙勲されました。フランス共和国の芸術文化勲章は、当時の文化大臣アンドレ・マルローから「芸術家、作家、創作から尊敬され羨望される者へののみ与えられる」と言われ、大きな賞賛を浴びています。

叙勲に、相馬高校同窓生として改めて敬意を表したいと感慨無量です。(馬城会京浜支部報、MCA AHORI TOPICSより引用)

シオンを明治大学が取得する際に中心的役割を果たした。著名な文化人としての叙勲に、相馬高校同窓生として改めて敬意を表したいと感慨無量です。



ジャン・バティスト・ルセック公使(右) クリスチャン・ポラック氏(左)